

復興は健康から

いわて東北M・Mの取り組み



コホート事業とは？

今年から始める健康調査のことをお話ししたい。東北メディカル・メガバンク事業は、文部科学省と復興庁による復興支援

気仙のデータを予防に

岩手医大・丹野准教授の講演より③

事業。第一に被災地に医師らの医療従事者を派遣し、地域医療支援を行う。

第二に被災地を中心と

住民が今後参加する健康調査からつながる可能性や今後の活動に理解を深める住田町健康づくり推進員 矢巾町・岩手医大

した住民の皆さんの健康調査を実施し、結果をお返しすることを通じて、皆さんの健康向上に取り組み長期にわたる健康調査を実施し、体質や生活習慣等、将来の病気の発生リスクを調べる。

本年度の対象地域は、久慈地域の4市町村と気仙地域の2市町（大船渡市、住田町）。陸前高田市と、提供を目指すのが大きな特徴で、これまでと違うところ。

個別化予防、個別化治療とは一人ひとりに合った予防法、治療法のこと。今までは飲酒や喫煙、食生活、運動、生活習慣、ストレスといったものを調べていた。今回のコホート研究では遺伝的な体質も調べる。病気の

これは今までのコホート研究で分かっている。心筋梗塞にかかりやすい体質の人と、かかりにくい体質の人がいる。心筋梗塞にかかりやすい体質の人でも果実・野菜をたくさんとると、心筋梗塞にかかりにくい体質の人と同じくらいのリスクになる。体質の差はあるが、生活習慣改善によって、リスクを下げられる。未来の健康づくりでは、健診で遺伝子型が分かれば、自分は心筋梗塞になりやすい体質だから野菜をたくさん食べようとか分かる。よりきめ細かい保健指導、個別化予防が可能になる。

は時期をずらして行う計画で、最終的には気仙3市町となる。

この地域住民コホート事業の特徴だが、生活習慣を含む環境要因に加え、さらに今回は、環境や遺伝要因、体質要因も一緒に調べる。一人ひとりに合った予防法や治療法（次世代医療）の開発

にかかりやすいかどうかを調べて、がんや脳卒中、心筋梗塞、うつ病、PTSDを調べる。これらは震災によって増えてくる病気。

例えば、果物や野菜をたくさん摂る人は心筋梗塞（心臓の血管が詰まってしまい、動かなくなる病気）にかかりにくい。

個別化予防・個別化医療とは

